

令和 6 年度第 3 回小松島高等学校学校運営協議会

日時： 令和 7 年 3 月 1 7 日（月）午後 3 時 30 分から午後 5 時

場所： 小松島高等学校 大会議室

会次第： 1 開会

2 学校長挨拶

3 協議

(1) 令和 6 年度の取組と令和 6 年度学校評価総括評価表について

(2) 令和 7 年度の取組について

(3) 各委員からの提言・意見交換等

4 その他

5 閉会

1 開会

安崎教頭：

本日はお忙しい中、学校運営協議会にご出席いただきありがとうございます。座席表にも記載しておりますが、本日はご都合により松田委員、山下委員、西沢委員がご欠席です。

2 学校長挨拶

板東校長：

本日は令和6年度の最後、第3回目の協議会となります。年度の総括として、ボランティア活動に関する取組、学校評価総括表についてご報告させていただきます。そのうえで皆様のご意見を賜りたいと思っております。

3 協議

(1) 令和6年度取組と令和6年度学校評価総括評価表について

安崎教頭：

それでは、会次第に従いまして、まず「令和6年度取組」についてご報告いたします。本日は活動創生課でボランティア活動を担当した富永幹也教諭より説明をします。

富永幹也 教諭（活動創生課）：

こんにちは。小松島高校の富永幹也と申します。教科は保健体育で、現在は2年生の担任をしております。また、部活動では硬式野球部を担当しております。今年度はボランティア活動の担当もさせていただきました。今年度の取組について、パワーポイントを用いながら説明させていただきます。小松島高校では、例年「松原育樹」などの地域ボランティアに積極的に取り組んでおります。今年度はこれまでの活動に加えて、新たに3つのボランティアに挑戦しました。1つ目は「高齢者スマホ相談会」、2つ目は「保育児童ボランティア」、3つ目が「南小松島駅活性化プロジェクト」です。この3つを中心に説明いたします。

まず、「高齢者スマホ相談会」についてです。こちらは小松島市教育委員会生涯学習課とソフトバンク株式会社との連携による取組です。内容としては、地域の高齢者の皆様に学校に来ていただき、高校生が先生役となり、スマートフォンの使い方やアプリの使用方法を説明する活動です。活動の周知のため、高校生がチラシを作成しました。背景デザインやスマホを中心に配置したレイアウトなどはすべて生徒のアイデアです。また、「松高生におまかせスマホ相談会」「スマホでつながる地域の絆」というキャッチフレーズも生徒が考案し、書道部の生徒が文字を担当しました。本来は8月下旬に実施予定でしたが、台風の影響で延期となり、11月21日に実施しました。前日の11月20日にはソフトバンク様より講習を受け、高齢者の方との接し方やスマホの具体的な操作方法について学びました。当日は放課後16時30分から受付を開始し、17時から相談会を実施しました。15名の地域の方に参加いただき、生徒2人

が1人の参加者に対応する形でレクチャーしました。後半には小松島市の危機管理政策課の方から、市の公式LINEの登録方法や活用方法についての説明もありました。生徒たちの満足度も高く、また、地域の参加者からは「知りたいことがわかってよかった」「また参加したい」との声を多数いただきました。生徒にとっても貴重な体験となり、教育委員会やソフトバンク様にとっても有意義な取組だったと感じております。この活動は徳島新聞やNHKなど、複数のメディアでも紹介され、生徒にとって自信となりました。

次に「保育児童ボランティア」についてです。こちらは小松島市役所児童福祉課との連携による取組で、2つの活動を行いました。1つ目は8月11日に行われた「集まれ！お子様フェスタ in 小松島市」への参加です。高校生がスタッフとして影絵劇のサポートや地震体験ブース、ボッチャなどのアクティビティを担当し、幼稚園児や小学生と楽しく交流しました。2つ目は小松島市内の保育園への訪問です。ハロウィンやクリスマス、誕生日会などのイベントに参加し、劇を披露したり、チェキで写真を撮ったりと、子どもたちと楽しく過ごしました。また、将来保育士を目指す3年生3名が保育園で1日職業体験を行い、朝から夕方まで保育士の仕事を体験しました。南小松島小学校の学童保育も訪問し、子どもたちと交流を深めました。

最後に、「南小松島駅活性化プロジェクト」についてです。こちらは「公共交通の維持発展」と「地域の活性化」の2つを目的とした取組です。4月には中山市長より委任状をいただき、その後複数回ワークショップを重ねてアイデアを出し合いました。実現可能性はさておき、「USJを作ろう」などの自由な発想をしながら、実現可能な案をまとめていきました。

5月には「地域公共交通活性化協議会」で代表生徒がプレゼンを行いました。活動資金を確保するためクラウドファンディングにも挑戦し、30万円の目標に対し68万円を集めました。企業訪問も行い、日新四国工場様では工場見学を、いつもスマイル株式会社様やJR四国様でも施設見学を通して学びを深めました。JR四国様には後日学校に来ていただき、アンケート結果をもとに意見交換会を実施しました。広報のために各メディアにも出演させていただきました。FM徳島やYouTubeチャンネル「ハロー小松島」などでPR活動を行いました。3月15日に実施した「高校生カフェ」では、キッチンカーでの販売やステージパフォーマンス、スマホ相談会の再実施、オリジナルコースター作成、ベンチ設置などを行いました。プロジェクトチーム約30名を含む当日本校生69名が参加し、事前に希望や学年、関係性などを考慮したシフトを作成しました。11月の高齢者スマホ相談会での経験を活かし、今回もスマホ相談会

を実施しました。「もりまちレジリエンス」様からの協力の申し出を受け、設置されたベンチには、生徒のアイデアが多く盛り込まれています。背もたれやひじ掛け、傘立てなど、利用者の声に基づいた設計になっています。また体育の授業で学んだダンス、箏曲、書道のパフォーマンスも披露しました。それぞれの活動に参加した人数は以下の通りです。

- ・ 高齢者スマホ相談会：46 名（2 回分）
- ・ 保育児童ボランティア：31 名
- ・ 南小松島駅活性化プロジェクト：76 名

特に2年生の参加が多く、積極的に取り組んでくれました。今回の活動では、学校・行政・企業・NPO 法人など、関係機関が連携してそれぞれの目的を実現することを目指しました。生徒は、教室外に出て学ぶことができる知見を得ることができました。この取組を通じて、生徒のキャリア形成にもつながり、小松島高校の魅力発信にも貢献できたと感じています。行政においては、地域の皆さまへの貢献という点で一定の実績があり、また課同士の連携という目的も達成できたとのことでした。民間企業や法人の皆さまにとっては、売上や利益に加えて、知名度の向上や人材確保といった取組の一環として、それぞれの目的が実現できていれば嬉しく思います。以上、本年度の活動の共有とさせていただきます。ありがとうございました。

久保教諭：

このあと、富永先生は部活動指導のため退席しますので、この場でご質問やコメントがある方はお願いいたします。

佐藤委員：

生徒には学校では学べないことを地域に出て学んでほしいと、以前からお願いしていたことが全て詰まっている内容で感動しました。地域の方々との Win-Win の関係で進められていることが素晴らしいです。

井村委員：

高校生カフェに立ち寄らせてもらいました。高校生が楽しんで活動を行っている様子が印象的でした。また、小松島高校が頑張っていることを小松島市民の人に認知してもらういい機会であったなと思います。

畠会長：

イベントは花火のような一過性のもので終わることも多いですが、今回の取組は焚き火のように持続的な取組になると思います。このような取組を見守りに活用できないかなと思いました。高齢者が情報を収集できるようになることで、防災の観点からも命を救う活動につながると 생각합니다。

沖委員：

学校関係者という立場で聞かせていただきました。地域に貢献することができたことを子どもたちが体感して、いずれは職業につながって働く意欲にもつながるのではないかなと思いました。中学生にも何かできることを探していきたいと思います。

内山委員：

小松島港に客船がきている日と重なっていたので、高校生カフェに立ち寄ることはできませんでしたが、当日盛況な様子を聞きました。何か課題だと感じることはありましたか。

富永教諭：

行政や関係者の皆様の協力あつての取組でしたので、より綿密な打ち合わせやスケジュール感の共有が、当初の予定より後ろ倒しになった面もありました。修正しながら、臨機応変に対応する必要があつたので、より計画的に取り

組めていれば、終盤のスケジュール調整は軽減できたように思います。スケジュールが後ろ倒しになったために、企画調整に十分に時間がかけられなかった点が今後の課題です。

久保委員：

生徒の成長や地域との連携という意味では大きな成果が得られたと思っています。今後はこのような活動が学校活動として根付くような仕組みづくりにも取り組んでいきたいと考えています。

それでは引き続き、学校評価総括評価表について私の方から説明させていただきます。資料はホチキスで留めてある部分と、グラフのある学校評価最終アンケートをご覧ください。このアンケートは12月に生徒、教員、保護者を対象に実施したものです。

まず総括評価表についてご説明いたします。今年度、校長先生より提示された重点課題は以下の通りです。

1. 主体的・対話的で深い学びの実現
2. キャリア教育の充実
3. 生徒主体の活動の充実
4. スタディサプリの活用推進
5. 開かれた学校づくりの推進
6. 働き方改革の推進

この6つの課題に基づき、各課で具体的な目標を立て、自己評価を行っております。1枚目では新学習指導要領に沿った観点別評価の定着についての評価です。全教員が理解し、生徒にも伝えられているという評価になっております。これを今後の学びの向上にどう繋げていくかが来年度の課題です。行事の

実施や広報活動にも力を入れており、オープンスクールや中学生の体験入学も多く実施しました。

次にキャリア支援課では、学力向上やキャリア教育に取り組んでいます。特に「未来のための手帳」やスタディサプリの活用により、自己管理能力の育成に力を入れております。1点訂正があります。キャリア支援課の「一つ以上の合格を得た生徒の割合」は、本日時点では96%となっております。現時点でまだ就職活動や大学受験中の生徒もいますが、ほぼ全員が進路が実現しています。

学びプロジェクト推進課では、ホームページの管理、スタディサプリアや総合的な探究の時間の推進に取り組みました。教員、生徒ともに活用が進み、評価はAとなっております。また、ホームページの更新回数は158回でした。Aの目標にはわずかに届きませんでしたが、各課と連携しながら今後さらに発信力を強化していきたいと思っています。

こころとからだの支援課では、生活習慣の確立や人権学習などの取組を行いました。今年度は研究指定を受けた取組も行っており、評価はAです。

活動創生課については、先ほど富永先生の発表にもありましたように、委員会活動やボランティア活動が非常に活発でした。生徒は4月に個人目標を立て、その実施状況をアンケートで振り返りました。これも高評価の一因となっています。防災学習に関しても、自衛隊との連携や地域と協力した避難訓練などを実施し、評価はAとなりました。

学年ごとの評価については、「松高ルーブリック」という目標表に基づいて、各学年主任が目標を設定し、評価を行いました。

管理職の先生方についても、授業力向上や働き方改革の視点から評価を行い、概ね肯定的な結果となっています。

アンケート結果のグラフをご覧ください。左側が令和6年度、右側が令和5年度の結果です。上昇した項目には白抜き三角で示しております。特に「松高生の教育方針」や「生徒一人一人の目標意識」の項目で上昇が見られました。スタディサプリアをはじめとするICT活用が学びの意識向上に繋がっていると考えています。一方で、教員の自己評価については課題が残っていますので、校内で目線をそろえ、活動の効果を見直す必要があると考えています。以

上が学校評価総括評価表の説明となります。ご質問がありましたら、お願いいたします。

佐藤委員：

素晴らしいなと感じたのが、生徒一人一人が目標を持つということを大事にされていることです。このために重要なのがスクールミッションを生徒自身が理解していることで、これがきちんと示されているところが素晴らしいなと感じました

久保委員：

ありがとうございます。担任としても、この評価表やグランドデザイン、学校案内の目標をもとに生徒と向き合いやすくなりました。3年間かけて目標に向かって取り組んでいく姿勢が、教員にも浸透してきていると感じています。

畠会長：

学校評価アンケートの学校目標についての評価が生徒と大人とで異なっているという結果、特に生徒の評価を考えたときに、総括評価表の「読書への関心を高める」の項目で、行間を読むことができる力をさらに高めることができるのではないかと思います。物語や詩など文章理解力を高めることができれば、会社の理念から理解ができます。それができないと、就職するときに、何をしているのかという「Do（行動）」のみを重視するようになります。入ってから「Be（価値観・信念）」の部分が思っていたものと異なっているということで早期離職につながることもあります。長い目で見たときに、ミッションやポリシーを理解できる力は必要だと思います。

畠会長：

これまでは肉体労働から頭脳労働になってきて、これからは感情労働になり、感性であったり、精神性であったり、感情が働く部分が重要になると思われます。教育の場として、学生にどのように身に付けてもらえるかが鍵になっ

てくるのではないかと思います。そうすれば生産性や働きがいも自ずとあがってくると考えています。

佐藤委員：

働きがいにもつながってきますね。

井村委員：

終身雇用が難しくなって来ている時代で、若い人の求めるものも変わってきています。会社の理念を理解することがさらに重要になってきています。

板東校長：

それでは続いて、令和7年度 of 取組についてご説明いたします。今回の総括評価表をもとに、次年度に向けた方向性を整理しております。本校の目指す姿としては、「生徒一人一人が将来のために必要な力を身につけ、自らの進路を切り拓くことができる学校」を目標としています。

一方で、今後の課題としては、スタディサプリ以外の探究的な学びや、総合的な探究の時間の充実が必要だと感じています。また、生徒数の変化や教員定数の調整も予定されております。令和7年度入学生は160名となりましたが、今の教員数での運用が可能と聞いていますので、来年度に関しては今年度と同じクラス数での編成としたいと考えております。

外部との連携やプロジェクト活動に関しても、総合的な探究の時間と結びつけながら、より効果的な形で進めていきたいと考えております。

次年度も引き続き、スタディサプリの活用で個別最適な学びを活性化し、また生徒の委員会活動をさらに強化できるように取り組んでまいります。

安崎教頭：

学校運営協議会要綱第10条にもあるとおり、学校運営に関する基本方針については協議会の承認を得ることとなっております。ご承認いただけたものとしてよろしいでしょうか。それでは各委員からの提言・意見交換等ということで、ご意見をいただけますと幸いです。

佐藤委員：

地域連携の活動に関しては、担当の先生方のご負担が大きかったのではないかと推察します。総合的な探究の時間などの活用によって負担が軽減できるのであれば検討していただきたいです。

各委員からの提言

佐藤委員：

防災学習の時間を使って生徒たちに自助を高める取組を検討してはどうかと考えています。私自身も近隣中学校や小学校で体験学習をファシリテートしています。文部科学省もまず生徒の自助の力を高めましようと呼びかけています。それに対応できている学校は少ないのが現状です。緊急時の瞬間に、命を守るために何をすべきかの訓練が抜けてしまっています。講師として来させていただきますので、防災学習に取り入れてみませんか。

板東校長：

どれくらいの規模でしていただけるのですか。

佐藤委員：

体育館で全校生徒を対象にした形でできます。また保護者にも呼びかけていただいても良いです。大震災で多くの命が失われましたが、知識があれば失わ

れなかった命もあるかもしれません。保護者の方の意識の変革も必要なので、呼びかけさせていただきたいです。生き抜くための知識を得ていただきたいです。

井村委員：

地域と連携した活動は大変だったと思いますが、総合的な探究の時間等を活用するなど持続的に実施できる形に工夫して、生徒に地域に貢献する実感を得てほしいです。普通科高校の在り方が今後何年かで変わっていく中で、「小松島高校頑張ってるよね」ということを表現して行ってほしい。在校生がやりたいことを楽しんでやっていることを発信してほしいと思います。高校生の活動が地域に与える影響は大きいと思います。地域の人に「松高って頑張ってるね」と言ってもらえるような、存在感のある学校になってほしいです。SNSなども使って、学校の良さをもっと発信していけると良いですね。地域での「松高イメージアップ作戦」を期待しています。

畠会長：

先生方の負担が増えていないかなということが心配です。来年度は教員数が確保できたということですが、人口動態を考えると教員数は減っていくのではないかと考えられます。授業内の活動にしたり、地域の人材を活用した部活動にしたりなど工夫や仕組み化が必要であると考えました。校務分掌の活動も縦割りで行うのではなく、横断的に行うなど工夫を検討していく必要があるのではないかと思います。

沖委員：

中学生の進路選択にも大きく影響しますので、継続的な取組が重要だと思います。例えば「去年も駅プロジェクトをやっていたな」と思って入学した生徒が、今年もその取組に関われる、そんな風に連続性があると良いですね。総括評価表でAがついても、目標を変えずに、継続して行って欲しい。これらの活動を通して、世代が違う人ともコミュニケーションが取れる力を身につけて行ってほしいです。

内山委員：

外国人の観光客の方々が、東京や京都・大阪から地方へ足を運ぶようになってきました。地方の方の生活をみてみたいという方も増えてきました。日本の教育を見たいという方も増えてきたようです。学校教育を見せるような取組も面白いかもしれません。

安崎委員：

それでは、今日のご意見を踏まえまして、今後の進め方についてご案内させていただきます。本日の議事録につきましては、各委員の皆様を確認させていただき、ホームページへ掲載します。

また、学校運営協議会要綱の第5条に「委員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。」とあります。改めてお声をかけさせていただきますので、よろしくお願いします。令和7年度第1回目の学校運営協議会は、例年通り、5月中旬頃の開催を予定しております。4月早々に日程調整のご相談を差し上げる予定ですので、よろしくお願いいたします。

以上をもちまして、令和6年度の学校運営協議会を終了とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。